

## 知的障害教育における観点別学習評価の考え方

### 1 効果的な「学習評価」のポイント

「学習評価は、学習指導の改善や学校における教育課程全体の改善に向けた取組と効果的に結び付け、学習指導に係るPDCAサイクルの中で適切に実施されることが重要である。特に、知的障害のある児童生徒に対する指導を行う場合、一人一人の実態に即して、個別に指導目標や内容を設定し、個別に評価することになるが、設定した指導目標が高すぎたり、指導内容が具体性を欠いたりするなどにより、結果として、効果的な指導につながらないことも考えられる。このため、設定する指導目標や内容については、その妥当性の向上に十分配慮する必要がある。」という中央教育審議会からの指摘があります。これを受けた平成 25～26 年度の国立特別支援教育総合研究所の学習評価の推進における研究報告では、効果的な学習評価のPDCAサイクルとして、以下のように示しています。

#### ① 指導計画作成段階 (Plan)

学校教育目標を達成するために編成された教育課程を基に、年間指導計画や単元計画を作成する段階であり、ここでは、単元の目標設定と観点別学習評価の4観点(「意欲・関心・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」)に基づく評価規準の設定が重要である。このことにより、学習状況を判断する目安が明らかになり、観点による分析的な評価が可能となる。活動そのものではなく、「何を学ぶのか」といった必然性や背景を大切にされた指導計画の作成につながる。

#### ② 指導計画を踏まえた実践 (Do)

授業の実施に当たっては、評価規準や評価方法などの評価計画を明記した学習指導案や略案を準備し、個々の児童生徒の学習状況が評価できるようにする。また、児童生徒の主体的な取組を促し、自ら思考・判断・表現する場や活躍する場を設定するなど、目標の実現状況が把握できる評価活動や評価場面の工夫や児童生徒の自己評価、他者評価、相互評価等多様な評価の工夫が重要になる。

#### ③ チェック段階 (Check)

評価を「学習状況の評価」「授業の評価」「指導の評価」に整理する。「学習状況の評価」では、観点別学習状況の評価をし、目標に準拠した分析的な評価を行う。児童生徒のよい点や可能性、進歩の状況など、個人内評価も行う。個々の評価の集積により、単元・学期・年間での総括を行う。「授業の評価」では、教員の指導に関わる評価、目標の妥当性について評価し、これらの評価をまとめて単元の総括を行う。「指導の評価」では、授業の評価を集積して、単元計画や年間指導計画、個別の指導計画等の評価を実施する。

#### ④ 改善の段階 (Action)

学習評価をもとに、授業改善や指導計画の改善、個に応じた指導の充実を図る。実施した評価を授業レベルから単元レベルへ、単元レベルから教育課程レベルへと関連させていくことで、教育活動全体の改善に結び付けていくことが重要となる。

## 2 観点別評価の意義

観点別学習評価は、教育基本法等により明確にされた教育の理念に基づき、学校教育法で規定された「生きる力」を構成する学力の3要素との関連に基づいた「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4観点からの分析的な評価です。

- 「関心・意欲・態度」とは、各教科が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を児童生徒が身に付けているかどうかを評価するもの
- 「思考・判断・表現」とは、各教科等で習得した知識・技能を活用して課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力」を児童生徒が身に付けているかどうかを評価するもの。ここでの「表現」とは、基礎的・基本的な知識を活用しつつ、各教科等の内容等に即して、思考・判断したことを、記録、要約、説明、論述、討論といった言語活動等を通じて評価するもの（\* 言葉での表現が難しい場合、身振りやカード選択などの方法も多様に評価）
- 「技能」とは、各教科等において習得すべき「技能」を児童生徒が身に付けているかどうかを評価するもの
- 「知識・理解」とは、各教科等において習得すべき知識や重要な概念等を、児童生徒が身に付けているかどうかを評価するもの

授業構成の中で、「思考・判断・表現」を評価するためには、それらを評価できる場面が設定されている必要があります。指導計画を構成する際に、指導案作成段階から、観点別学習評価を活用し、学習活動を工夫したり、授業改善に生かしたりすることが大切です。また、次のようなメリットが報告されています。

- 児童生徒のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価できる。
- 指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い、学習意欲の向上に生かすことができる。
- 授業を多角的に構成する視点が得られる。

(例)「算数」

小学部 1 段階 (1) 具体物があることが分かり、見分けたり、分類したりする。

- ア 関心・意欲・態度…具体物をつかもうとする。
- イ 思考・判断・表現…同じものを集めることができる。
- ウ 技能…特定のものに注目する。
- エ 知識・理解…具体物を対象として捉えている。

小学部 2 段階 (1) 身近にある具体物を数える。

- ア 関心・意欲・態度…具体物を操作しようとする。
- イ 思考・判断・表現…具体物を 5 個ずつなど、集合としてまとめることができる。
- ウ 技能…具体物を操作しながら、数詞と対応できる。
- エ 知識・理解…1 から 10 までの数詞を理解する。

\* 児童生徒が自分の力を発揮して取り組めるよう、達成可能な目標を設定する。

### 3 生活単元学習、作業学習における評価規準の作成例

評価規準とは・・・

「学習指導要領の目標に基づく幅のある資質や能力の育成の実現状況の評価を目指す」もの。国立特別支援教育総合研究所の研究では、「評価観点によって示された児童生徒に付けたい力をより具体的に単元ごとに文章化したもの」とする。

#### 小学部 生活単元学習「お店屋さんをしよう」

(1) 単元目標 (例)

- 計画から開店まで自分なりに見通しをもち、主体的に課題に取り組もうとする。(関心・意欲・態度)
- 開店に向けての話し合い活動や準備に係る活動を通して、友達と協力してやり遂げる喜びを味わう。(思考・判断・表現)
- 品物作りで用具や材料を正しく扱うことができる。校内の教員や他校の友達と関わり、コミュニケーションを円滑に行う力を身に付ける。(技能)
- お店屋さんでのやりとりやお金の扱い方を身に付ける。(知識・理解)

(2) 評価規準 (例)

#### 関心・意欲・態度

- ・準備の話し合いに進んで参加しようとする。
- ・意欲的に品物作りに取り組もうとする。
- ・お店さんの練習に関心をもち、自分から進んで取り組もうとする。
- ・お店さんや友達を意識して、当日のお店を運営しようとする。

#### 思考・判断・表現

- ・昨年までの経験を生かして、店の運営について話し合っている。
- ・話し合いや練習を基に、店を運営している。
- ・開店に必要な品物の数が分かり、それに向かって製作に取り組んでいる。
- ・招待状やお礼状の意義にそって招待状等を書いている。

#### 技能

- ・製作手順通りに品物を作っている。
- ・自分の店で円滑に接客している。

#### 知識・理解

- ・店の準備から開店までの流れを理解している。
- ・品物作りに必要な道具や手順について理解している。
- ・自分の店の品物の名前や値段について理解している。

#### 高等部 作業学習 単元「目指せ、完売！チーム製菓班」

(1) 単元目標 (例)

- 働くことや職業生活に関心をもち、必要な態度を身に付け、積極的に作業に取り組もうとする。学校祭でのバザーを楽しみにして、製品作りや出店、販売活動に友達と協力して主体的に取り組もうとする。(関心・意欲・態度)

- お客さんに喜んで買ってもらえる製品を考えたり話し合ったりしながら、自分の仕事を効率的に進めることができる。出店に向けての一連の活動を通して、友達と協力してやり遂げる喜びを味わう。生地状況に応じて、自分でより良く判断・工夫し作業をする。校内外の様々な人と関わり、必要なやりとりや報告・連絡、相談ができる。(思考・判断・表現)
- 製作や販売活動で使う道具、用具、材料等の扱い方を身に付け、正確で効率よく作業ができる。販売では、円滑に接客を行うことができる。(技能)
- 働くことの意義、作業に必要な知識を身に付ける。店の準備から開店までの流れを理解する。製品作りに必要な道具や手順について理解する。製品の名前や用途、値段について理解する。(知識・理解)

## (2) 評価規準 (例)

### 関心・意欲・態度

- ・身支度を進んでしようとする。
- ・クッキー作りに興味・関心をもって取り組もうとしている。
- ・挨拶、返事を進んでしようとする。
- ・作業工程に関心をもち、自分の作業分担を知ろうとする。
- ・自分の目標をもち、進んで作業に取り組もうとする。
- ・クッキー作りを通してものを作る喜びを知ろうとする。

### 思考・判断・表現

- ・砂糖や小麦粉の袋を用意している。
- ・生地の状態を見て報告している。
- ・分からないときは質問をしている。
- ・安全や衛生に気を付けて作業をしている。
- ・作業状況に応じて、次に何をすべきか判断している。
- ・製品の完成度や仕事量を高めようと工夫している。

### 技能

- ・量り、オーブンの操作を正しく行うことができる。
- ・砂糖や小麦粉、バターを正確に計量することができる。
- ・型抜きした生地を天板に決められた数を並べ、効率よく作業を行うことができる。
- ・自分の分担に責任をもち、目標にそって作業を行うことができる。
- ・掃除を行うことができる。

### 知識・理解

- ・働くことの意義を理解している。
- ・小麦粉、砂糖の扱い方やクッキーなどの製品の管理方法について理解している。
- ・製菓作業の工程を理解している。
- ・作業時間と休憩時間を理解している。
- ・販売を通して、クッキーの生産から消費への流れを理解している。